

## 離職者向け短期職業訓練(介護サービス科) 訪問介護員(2級)養成研修事業の実施について

生活福祉科介護福祉専攻

村岡 洋子

京都短期大学では、本年度初めて上記のような、長い名前の事業を行いました。

京都府府民労働部能力開発課の依頼により、京都府立福知山高等技術専門校の委託事業で、京都府北部のハローワークに於ける求職者に2級訪問介護員(ホームヘルパー)の研修を実施するものです。

これまで、訪問介護員養成研修には、大学の教員(非常勤を含む)と介護・入浴実習室を提供して数十回にわたり協力してきましたが、今回は、本学が主催者となって計画立案・各種の手続きを始め、研修に係る総ての業務をおこなわなくてはならず、依頼を受けてから修了するまで約7ヶ月の間、精神的にも時間的にも、さらに労力的にもきわめて負担の大きい大変な事業となりました。これも、地方の短期大学に課せられた地域貢献のひとつとなってくれば幸いと考えています。

事業の概要は以下の通りです。

実施期間：平成14年度7月31日～9月20日まで

対象者：府北部の職業紹介所に求職に訪れている離職者のうちの希望者 29名

事業内容：通常の2級養成研修(130時間)に施設実習70時間を加えて200時間とする。

実施場所：京都短期大学(教室、介護実習室、入浴実習室)及び近隣の福祉施設

資格取得だけが目的ではなく、就業につながる即戦力をつける為の施設実習が70時間も追加されているのは、ヘルパー養成の内容と資質が問われている今日、望ましいことではありますが、すでにさまざまな形で各所から実習生を受け入れている福祉施設に長期にわたる受け入れをお願いするのは、その負担の大きさが理解できるだけに本当に大変でした。これも本学と各福祉施設さんとの間の、日頃の交流あってこそその成果だと自画自賛しています。

さすがに、真剣に職を求めておられる方々であるだけに、長い研修期間を通して、きわめて熱心に、参加していただき、お一人を除いては、全員、研修を修了されました。

研修期間中の事故や病気、特に不慣れな施設実習中の人身や器物に関する事故など、あるいは、人間関係や仕事の内容上の誤解のための紛争など、あらゆるケースを考えての反対意見もあったのですが、幸いほとんど事故も無く研修が終ったことは、奇跡のような幸運でした。

後日うかがったところによると、半数以上の16人が、何らかの形で就業を果たされたそうです。良かった、と思う一方、施設のケアワーカーが、安易に養成されるヘルパーの仕事となっている、という現状を改めて認識し、本学の養成している介護福祉士の価値を社会がきちんと評価して、業務独占が実現する日はいつ来るのだろうか、という思いに駆られる日々でもありました。

ともかく、いつまでたっても、人手不足の嘆かれる介護福祉の担い手の同志として、一緒にがんばっていきましょう、と祈るばかりです。